

ある里親家庭におじゃましました！ -Y夫婦とUくん-

㊦ 養育家庭支援センターきらきら Y Y夫婦

㊦ 里親になろうと思ったきっかけは？

Y 子どもが欲しいという思いがあったのですが、病院へ行った時に病気が見つかり、子どもを諦めないといけなくなりました。その時に里親制度を知ったことがきっかけです。

㊦ 子どもに会うまでの気持ちと、慣らし中の気持ちの変化はどうでしたか？

Y 最初は、不安の方が大きかったです。でも、子どもの顔を見た瞬間に、この子と一生を共にしたいと思いました。慣らしの最初の時は、お風呂の入れ方やミルクのあげ方、そしておむつ交換のやり方もわかりませんでした。だんだん慣れて、何をすればいいか少しずつ分かっていきました。

【きらきらコメント】里母さんには最初から心地よく抱っこされていたUくんでしたが、里父さんに抱っこされると泣いてしまいます。スヤスヤ眠っている時でも、里父さんに抱っこされるとスイッチが入ってしまって…。

しかし、それでも里父さんは汗をかきながら、ニコニコと笑顔を忘れず頑張っていたのが、とても印象的でした。



㊦ 子どもに出会ってから家族になるまでの思いや、夫婦の中で変わったことはありますか？

Y 子どものおかげで、夫婦の会話が増えました。とにかく子どもの力は、大人にとってものすごく不思議です。最初の頃は、育児のことでよくケンカをしました。でも、お互いが自分の心の声を思い切って出したことで解決しました。

㊦ 皆さんへのメッセージをお願いします！

Y 里親は、決して大変なことではありません。ただ、最初の一步です。少しでも関心があれば、フォスティング機関に話を聞きに行ってください。養育することに対して、いろいろな人のサポートが充実しているから安心です。世の中には、まだまだ助けを必要としている子どもが大勢います。多くの子どもが、家庭の温かさを得られるのを待っています。そして、大人たちも、その子どもによって助けられています。子どもも大人も両方が幸せになれるのが里親制度だと、自分が経験して感じました。

【きらきらコメント】Y夫婦とUくんの初対面は、不思議なくらい自然でした。それでもY里親宅に行くまで、外出、外泊などを含め3カ月ほどの期間を要しました。その間に、Y里親は少しお疲れモードになったことも…。Y里親さんに限らず、里親さんは一度は心身ともに疲弊し、涙されるものです。そんな時は、施設の職員、フォスティング機関がしっかりサポートします！

資料提供：養育家庭支援センターきらきら

最後に

現在、さまざまな家族の形があり、里親家庭もその中の一つです。特別なことではなく、そこで暮らしている子どもも特別な子どもではありません。子どもにとって、実の親と暮らせない寂しさはあると思いますが、里親の温かな愛情により、血のつながり以上の強い絆を作ることができると思います。この絆こそが、その子にとって今後の人生の土台となり、里親にとっても、その後の人生を彩り豊かにするものと思っています。

里親特集に関する問い合わせ

こども未来課 ☎286・3117